

有用な新技術の位置付け

新技術活用システム検討会議が選定

推奨技術(27件)

公共工事等に関する技術の水準を一層高めるために選定された、画期的な新技術。

準推奨技術(60件)

公共工事等に関する技術の水準を一層高めるために選定された、画期的だが、更なる発展を期待する部分がある新技術

評価促進技術(10件)

他機関等の実績に基づき、公共工事等に関する技術水準等を高めることが見込める技術 (平成26年度より選定)

選考要件

従来に比べ飛躍的な改善効果を発揮

先駆的な取り組みであり幅広い活用が期待される

技術内容が画期的で将来飛躍的な効果の改善が期待できる

国際的に先端を行く技術、先進諸国への技術展開の期待

応用性が高く、国際的な課題の解決に資する

一般化・標準化に向けて活用を促す

新技術活用システム検討会議に推薦

現行実施要領に基づく活用促進技術(144件)

・総合的に活用の効果が優れている
・特定の性能又は機能が特に優れている技術 など。

活用促進技術(66件)

特定の性能又は機能が著しく優れている技術、など。

有用な新技術

設計比較対象技術(238件)

技術の優位性が高く、安定性が確認されている技術。

少実績優良技(21件)

技術の優位性は高いが、直轄工事等における実績が少ない技術。

新技術活用評価会議(整備局等)が選定

旧実施要領

実績件数

多
少

優位性

高
低

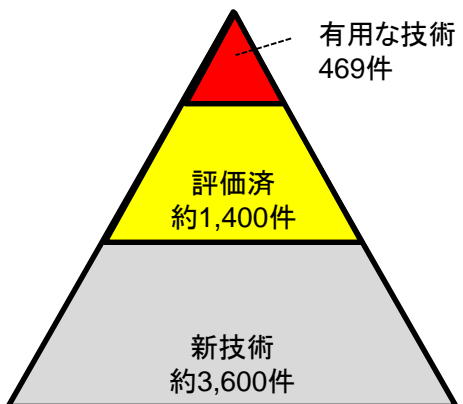
活用・評価

評価情報(活用効果評価、試行実証評価、事前審査)として反映された技術(約1,400件)

新技術(NETIS登録技術)(約3,600件)

有用な新技術のインセンティブ

- 工事発注時の総合評価方式での加点(当該工事へ効果が見込まれるもの)
- 工事成績評定での加点(発注者指定型を除く)
- 設計業務の比較検討において対象技術となる(共通仕様書に規定) 等



選定件数は平成28年4月時点